

〔伊呂波字類抄疊字〕暗誦 アシシユウ 誦誦

〔古事記序〕臣安万侶言、略於是天皇詔之、朕聞諸家之所賣、帝紀及本辭、既違正實、多加虛僞、當今之時、不改其失、未經幾年、其旨欲滅斯乃邦家之經緯、王化之鴻基焉、故惟撰錄帝紀、討覆舊辭、削僞定實、欲流後葉、時有舍人、姓稗田名阿禮、年是廿八、爲人聰明、度目誦口、拂耳勒心、卽勅阿禮、令誦習帝皇日繼及先代舊辭、然運移世異、未行其事矣、略中以和銅四年九月十八日、詔臣安万侶撰錄稗田阿禮所誦之勅語舊辭、以獻上者、謹隨詔旨、子細採摭、略中大抵所記者、自天地開闢之始、以訖于小治田御世、略中 和銅五年正月二十八日、正五位上勳五等太朝臣安万侶 謹上、

〔三代實錄清和〕貞觀四年八月十七日癸丑、是日從五位下守大判事兼行明法博士讚岐朝臣永直卒、永直者右京人也、略中 性甚聰明、一聽暗誦、

〔續古事談二〕在衡維時、オナジ時ノ藏人ニテ、藤内記、江式部トテゾアリケル、コノ維時ハ聰敏フシギナリケリ、遷都ヨリ後ノ人ノ家始ヨリ今ニイタルマデ、ソノ主ノ名、ウリカフ年月、皆コレヲ覺ユ、又人ノ忌日ミナシリタリケリ、此藏人ノ時、於御前前裁ノ名ヲ書タリケル、一草ヲヨム人ナカリケリ、

〔九曆〕天曆二年八月十九日、午時隨身高光參內、予藤原師輔依例自近衛御門高光童殿上事、有殿上酒肴、未、小童自上東門、入、先參藤壺、此間天皇御此舍、令伊尹兼通參上殿上、聊調酒食、出殿上、依寂然也、高光依召候御前、隨仰暗誦文選三都賦序、帝上藤原芳子感歎云々、

〔枕草子二〕村上ノ御時、せんようでんの女御藤原芳子ときこえけるは、小一條ノ左大臣殿藤原師尹ノ御むすめにおはしましければ、たれかはしりきこえざらん、まだひめぎみにおはしける時、ち、おとゞのをしへ聞えさせ給ひけるは、一には御手をならひ給へ、つぎにはきんの御ことを、いかで人にひきまさんとおぼせ、さて古今のうた二十卷をみなうかべさせ給はんを、御がくも